

## 慈雨を期待して

四国の瀬戸内側は雨が少なく、干ばつに見舞われやすい特性を有しています。ダム建設や大規模な用水事業が行われるようになるまでは、神社などで雨乞い祈願が行われました。慈雨があるときもないときもありました。愛媛県今治市の加茂神社と香川県高松市の鯉宇神社の例をご紹介します。

### ■加茂神社の雨乞い（愛媛県今治市）

延宝6年（1678）夏、干ばつのため、人々は大いに苦しみました。諸寺諸社で雨乞いが行われたものの効験がありませんでした。そこで野間郡の代官吉田柰左衛門が齋戒沐浴して新衣を被り飲食を断って加茂神社の神殿にお籠りして雨乞いし、社司池内氏も同じく食を絶ち内陣で心を込めてお祈りしました。すると、雲が起こり、雨が降り、その年は思わぬ豊饒を得るに至ったそうです（松山叢談（宇佐美家記）による）。加茂神社ではこの後も雨乞いが行われ、菊間町誌によると享保9年（1724）から安政3年（1856）までの間に加茂神社で雨乞い祈願が30回行われたことが記録されています。＜神原健編「愛媛県気象史料」1952年及び菊間町誌編さん委員会編「菊間町誌」1979年＞



### ■鯉宇神社の雨乞い（香川県高松市）

昭和14年（1939）、十河村（現高松市）は明治27年（1894）以来の大干ばつとなりました。6月12日に梅雨に入り、6月26日に四箇池のゆる抜きで田植えが始まりましたが、田植え終了後も雨に恵まれず、用水不足となりました。日一日とため池の水は減り、神内池、松尾池、城池、公渕池は無水状態となりました。県が各市町村に対して雨乞い祈願をするように通達したので、7月26日には鯉宇（かつう）神社で雨乞い祈願が行われましたが、効果はありませんでした。8月1日には平田池が無水状態になりましたので、各地で急ごしらえの井戸堀が行われました。土びんで水をかけることなどもしましたが、8月下旬には田一面が真っ白に乾き、実に哀れな収量の年でした。＜十河歴史研究会編「十河郷土史」1992年及び高松百年史編集室編「高松百年史上巻」1988年＞

